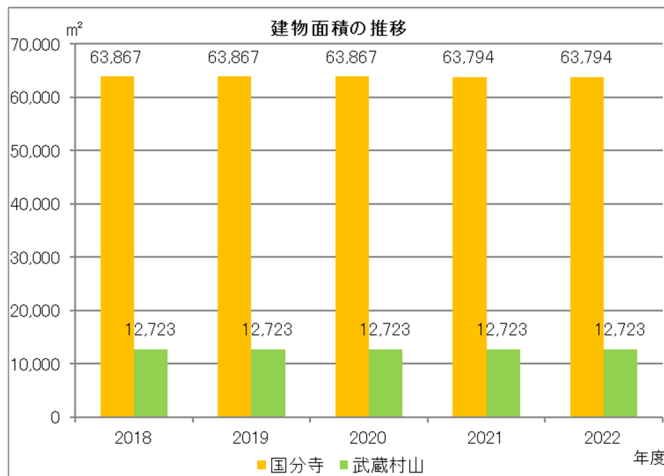
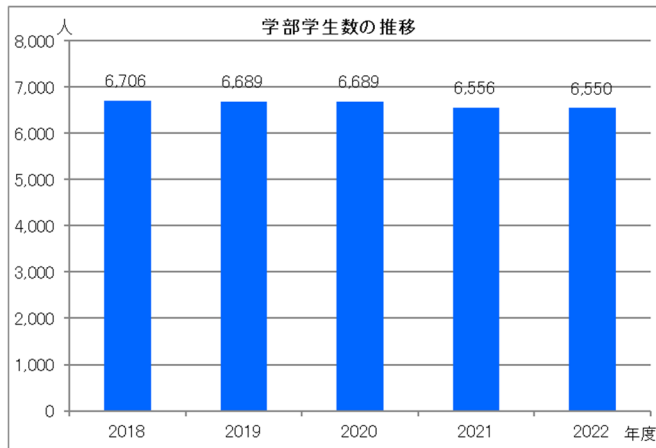


## 【1】基本データ（学生数・建物面積）

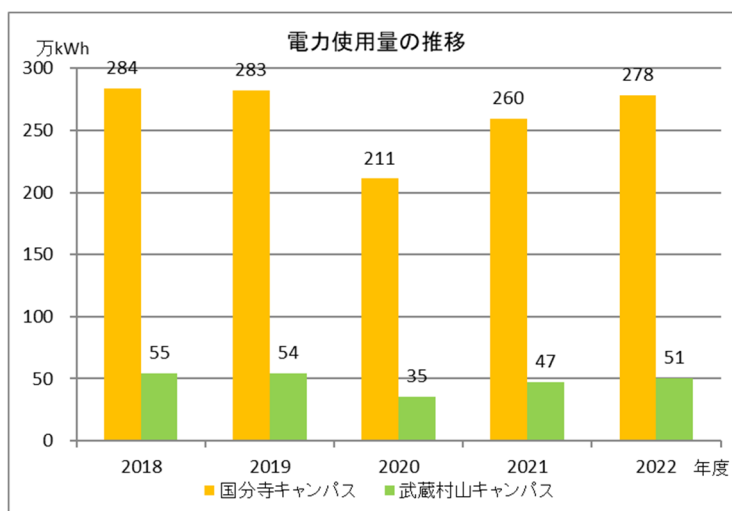
エネルギー・資源の使用量や廃棄物の排出量に直接影響する学生数、建物面積の推移です。  
過去5年間、大きな変動はありません。

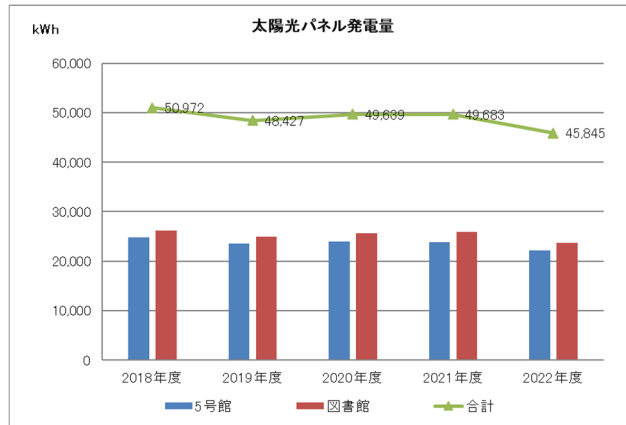


## 【2】エネルギー・資源使用量

### (1) 電力使用量の推移

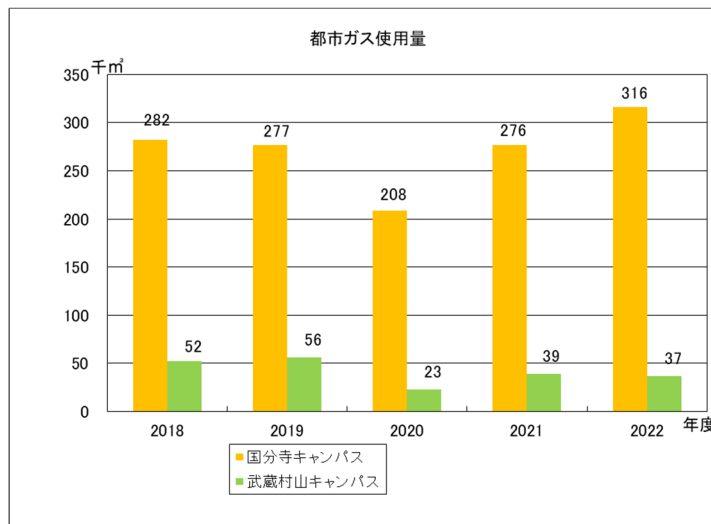
コロナ禍での入構制限により一旦大きく減少した電力使用量は、キャンパスに学生が戻ってくるとともに元の水準に戻りつつあります。教室内の機械換気の強化等のエネルギー使用量の増加要素がある中、照明のLED化の推進により、大幅な増加には至らずに抑制されている状況です。



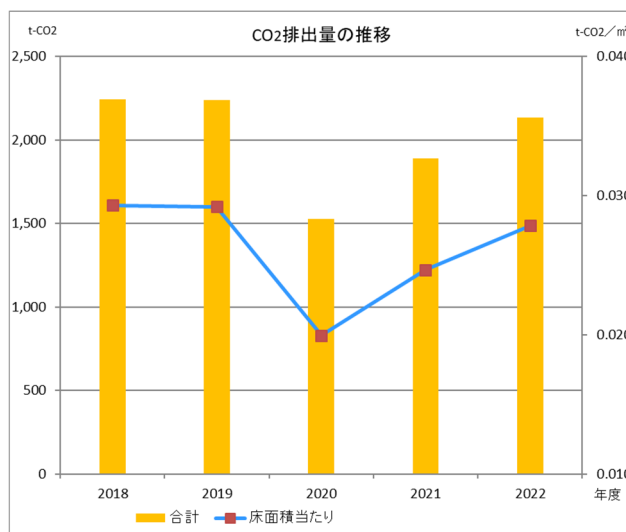


## (2) 都市ガス使用量の推移

ガス空調を使用しており、ガス使用量は空調の使用状況に大きく左右されます。窓開け換気しながらの空調利用となっていたため、通常よりもガス使用量が大きくなっています。



## (3) CO<sub>2</sub>排出量の推移



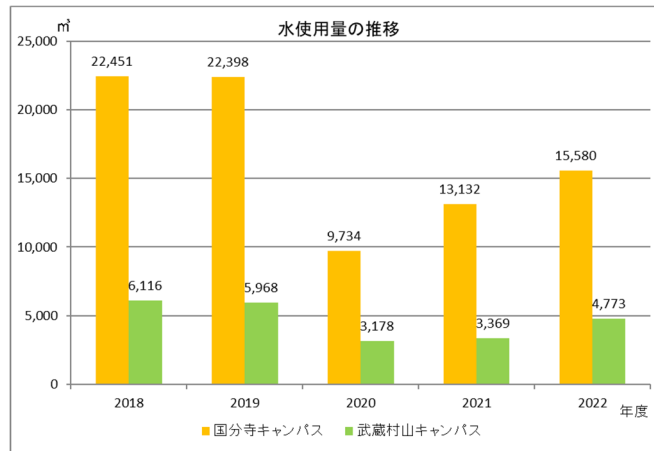
Co<sub>2</sub>排出量は、温対法に基づく「算定・報告・公表制度」において指定されている以下の計算式により算出

電気: 使用量 × 0.000408 (国が公表する電気事業者ごとの排出係数)

ガス: 使用量 × 45 (東京ガス公表の単位使用量あたり発熱量) × 0.0136 (排出係数) × 44/12

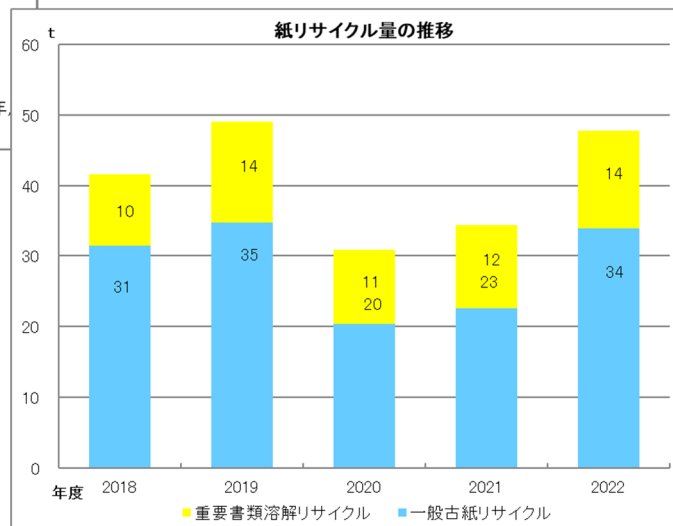
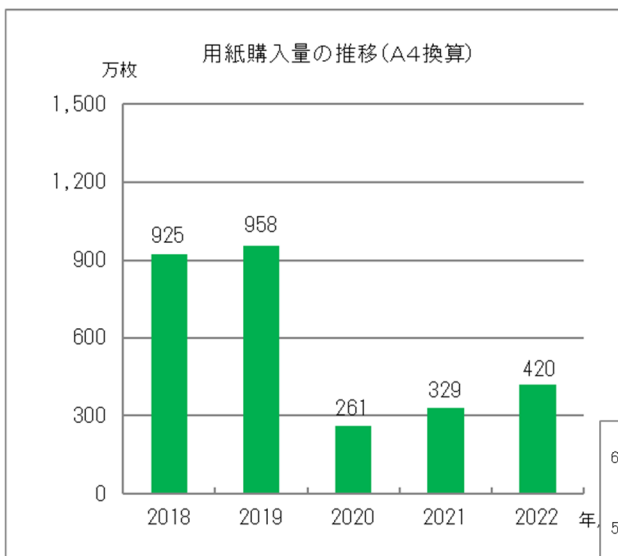
#### (4) 水使用量の推移

本学の水道は深井戸水を汲み上げて使用しています。コロナ禍後、学生がキャンパスに戻ってきていますが、人数・滞在時間とも完全に戻っているわけではないことが読み取れます。



#### (5) 用紙購入量と紙リサイクル量の推移

コロナ禍で、オンライン授業、オンライン会議の導入が進み、ペーパーレスが進んだことにより、キャンパスに人が戻った後も、用紙の使用量は低い水準のままとなっています。紙リサイクルについては、印刷物や過去資料の廃棄（リサイクル）もあるため、用紙使用量の増減と必ずしも一致していないところがあります。



### 【3】 廃棄物の状況

水使用量と同様に、キャンパス内の学生数・滞在時間が完全には戻っていないため、ゴミ排出量も以前の量までは戻っていないものと考えられます。可燃ゴミの排出量が低い水準のままである一方、落葉・紙ゴミ等の再資源化が進展しているため、リサイクル率が上がっています。

